

視察報告書

平成30年5月11日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会

(代表) 議員 大月 悦子



政務活動費により行政視察を実施しましたので、次のとおり報告します。

記

- 1 視察期間 平成30年5月9日(水)から平成30年5月9日(水)まで
- 2 視察先 岡山県津山市 作州絣保存会
- 3 視察議員名 大月 悦子
- 4 面会者 作州絣保存会 会長 日名川 茂美
- 5 視察目的 作州絣の振興について
- 6 視察の経過及び感想
別紙「行政視察報告書」参照
- 7 添付書類
 - (1) 行政視察報告書
 - (2) パンフレット

要した経費： 1 人合計 4,445円

(別紙)

会派 つばき
「行政視察報告書」
(視察内容及び感想)

日時 平成30年5月9日(水) 13:30~15:00

議員 大月悦子

1. 作州絣保存会を立ち上げた経緯

戦後、津山市における産業振興の目的で、1951年(昭和26年)岡山県工業試験場美作分場(津山分場)が開設された。振興品目の中で、以前盛んに作られていた、絣に注目し、絣織物の研究が本格的に進んだ。僅かに残っていた技術を復元して量産態勢を整え、その名も「作州絣」として市販に乗り出した。昭和31年度において分場試作品を東京市場に出荷したところ、予想外の好評をもって迎えられ、これをきっかけに活況を呈するようになった。



作州絣の誕生から最後の織元となるまで、一貫して深くかかわったのが杉原博経営の「大一織物」一軒となった。平成9年博が死去した後は、妻の茂子が織り続けたが茂子が他界後、杉原家と縁のあった日名川家に残された反物の販売が委託された。日名川茂美は販売をするに当たり、絣について知識を持たないと無責任な販売になってしまうと考えた。そこから、大一織物に残されていた数々の貴重な資料、岡山県工業技術センター資料、絣織り産地を巡りながら綿生地について絣織りについて学んだ。2007年(平成19年)からは、鳥取短期大学にある、「絣美術館」館長、吉田公之介に4年間師事した。

そして、手織「作州絣」大一織物の後継者として、杉原家親族に後継者として認められ、平成24年岡山県郷土伝統的工芸品、手織り作州絣認定後継者として正式に認められ、作州絣が再び復活することになった。

日名川茂美さんは織元として作州絣工房を持ちながら、平成24年8月に作州絣保存会を立ち上げ、また、2014年(平成26年)3月16日には津山市西今町に作州絣工芸館を開館した。

2012(H24) 作州絣織り人養成講座 開校式 1回 その後継続して開催している。

2017年(H29) 東京フォーラム 匠なでしこ認定 日名川茂美

福武文化財団 日名川茂美 奨励賞

保存会会員 約 40 名

保存会では、「作州絣」を広く普及、織りの伝統的文化を継承するために、作州絣の歴史的資料、道具の展示をしながら、小学生、市民、観光客を対象にした機織り体験、綿繰り体験、糸紡ぎ体験ができる実演機能を持ったスペースを設け、また、作州絣を使つての小物販売、作品の販売をして、市民、観光客への宣伝活動、PR 活動を行い、地域の産業・観光資源として工芸品の定着の推進を図っている。

2. 人材育成について

平成30年で7期 作州絣織り人養成講座の受講生募集している。募集要項添付織り人養成講座を開講して2018年で7年目、経緯絣をマスターして自分で作品を作られる方が7名育っている。その方たちは、自宅で作品作りに専念。2018年も3名が入門され、22名の方たちが絣織り技術を学んでいる。その中には7年目に入る方も数名おられました。

工芸館に機織り機10機

3. 今後について

人材育成の継続、本来の反物と小物織りの二本立てで運営をしたい。

しかし、ビジネス面（収益事業）も必要なので、体験にも力を入れたいと思っている。

（楽しみながら、作州絣を知ってもらふ機会としたい）

最後に一言、『せっかく復活させたこの県北の誇る岡山県郷土伝統的工芸品、手織り作州絣を二度と絶やしてはいけないという一心で、作州絣保存会を運営しています。』

4. 視察、調査を終えて

古民家を改修しての工芸館には、当日は2人の方がおられました。鳥取短期大学の吉田先生には継続して指導を受け、倉吉の民芸館の事もよく知っておられました。ホームページを活用しての情報発信はよくされている印象を受けました。

課題は、伝統の継承と商品化である。

会員同士でいま経済産業省主催の事業に参加して、「ビジネス戦略立案シート」を作成中ということで拝見させてもらった。

会長さんは思ったら皆に声をかけ、すぐに行動に移されていてとても力強く感じました。

収入につながらないことでは、家族の理解が大切ということも感じました。

市からの補助はほとんどなく、織り人養成講座を開催の時は近くにある作州民芸館を無料で借りられる。

しかし、善意、やる気 だけで伝統を継承することは困難。その価値をどのように認めるかということがお互いに理解しあい長期的な視点での取り組みが大切と感じました。

倉吉絣の今後の発展について大いに参考になる視察となりました。



会長 日名川茂美さん



陳列棚 (作品販売)



機織り機



体験学習の準備